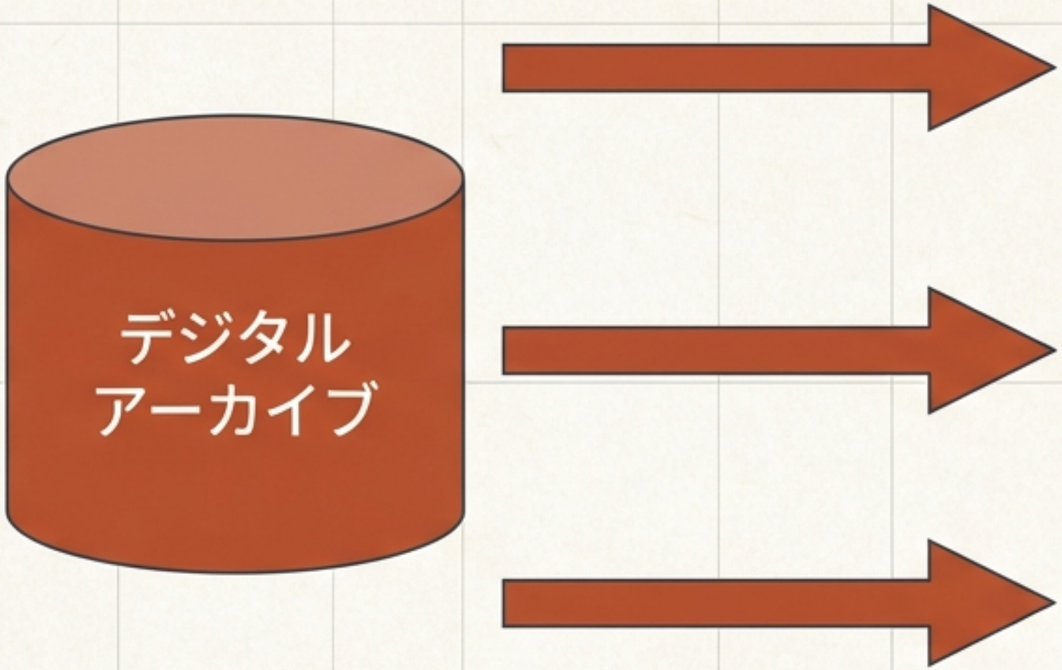
デジタルアーカイブ開発と活用プロセス

資料の保存から「知的創造」のサイクルへ

第２講：櫟 彩見（岐阜女子大学）

NotebookLM

デジタルアーカイブの利用目的：3つの段階



① 資料（データ）の提示
- 単体での提示
- 構成された提示

② 課題解決
- 資料（データ）分析

③ 知的創造
- 知的創造サイクル

アーカイブは単なる「保管庫」ではなく、新しい知を生み出すプラットフォームである。

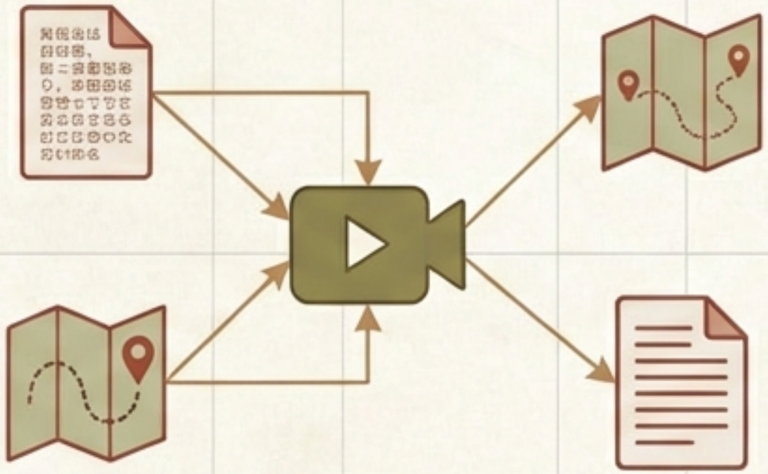
NotebookLM

活用①：資料の提示 ― 「見る」から「理解する」へ

単体での提示（Simple Presentation）

データを個別に閲覧する形式。
例：「和田家おうらい」(ADEAC / CC-BY)

構成された提示（Structured Presentation）



文脈や意図を持って編集された形式。
例：「木田宏オーラルヒストリー」「沖縄おうらい」

重要：単にデータを並べるだけでなく、構成（コンテキスト）を持たせることが重要。

NotebookLM

活用②：課題解決 — 過去のデータが未来を変える

ケーススタディ：沖縄県の学力向上プロジェクト

学習指導方法に関する資料
(1967–80年)

データ分析
(メタデータ・キーワード抽出)

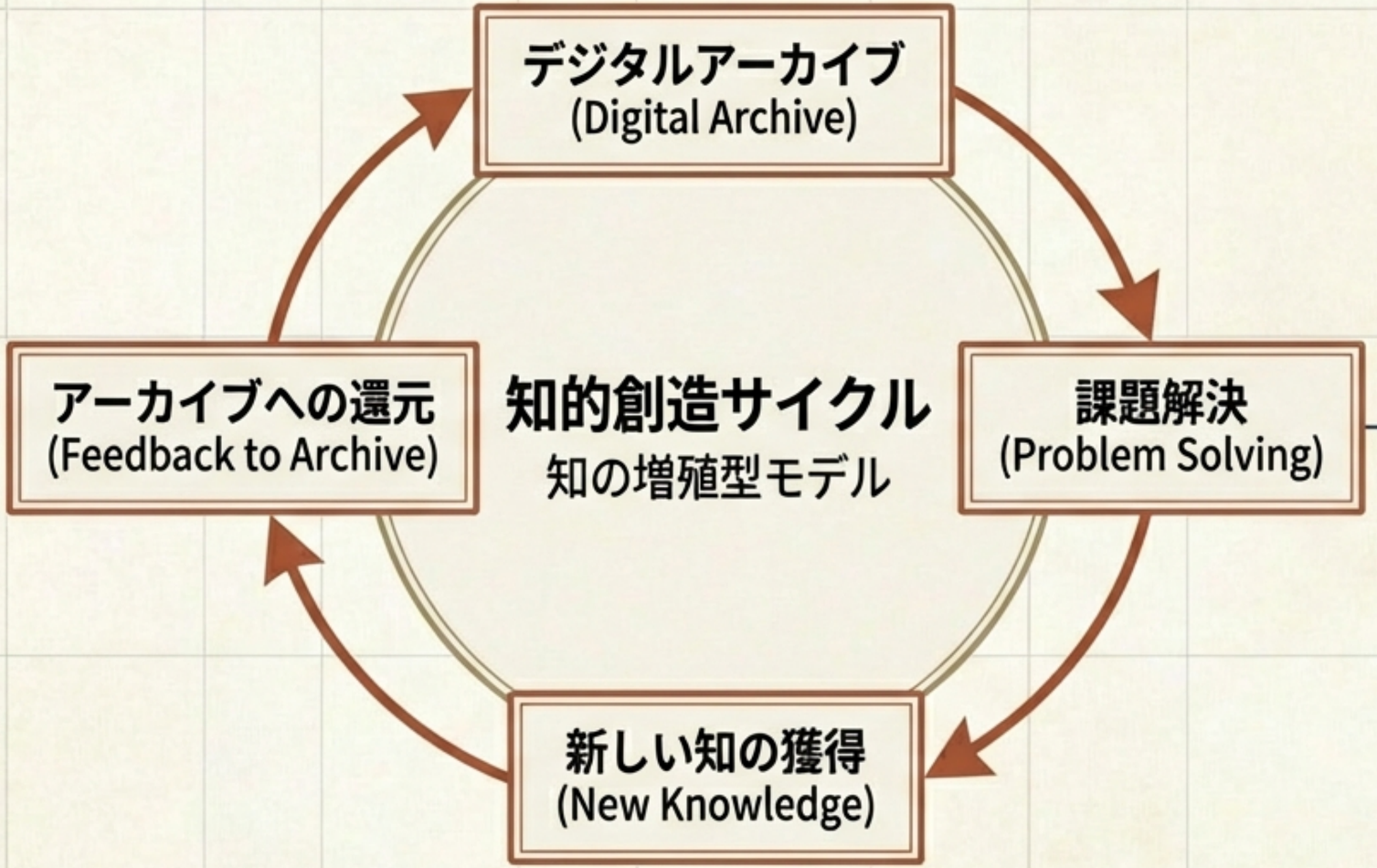
学力向上のための
手引き作成

実践・学力向上
(小学校での活用)

詳細は Archive DataReport No.139-145 を参照

NotebookLM

活用③：知的創造サイクル — 終わらない知の増殖



- サーチャー・アナリスト
- コーディネータ
- 新たな課題：資料間の「繋がり」の記録

NotebookLM

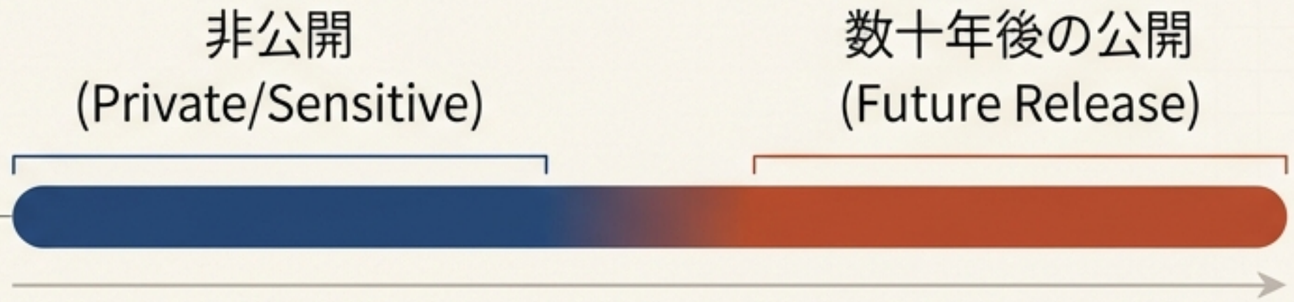
資料の選定評価 — すべてを公開すべきか？

事例：戦中・戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリー（仲本實氏の証言）

課題：すべての記録が即時公開に適しているわけではない。

- 個人のプライバシー
- 政治的・軍事的問題
- セキュリティリスク

Time-Lock



- 個人のプライバシー
- 政治的・軍事的問題
- セキュリティリスク

「著作権の消滅や時間の経過を待って、初めて歴史として公開できる資料もある」

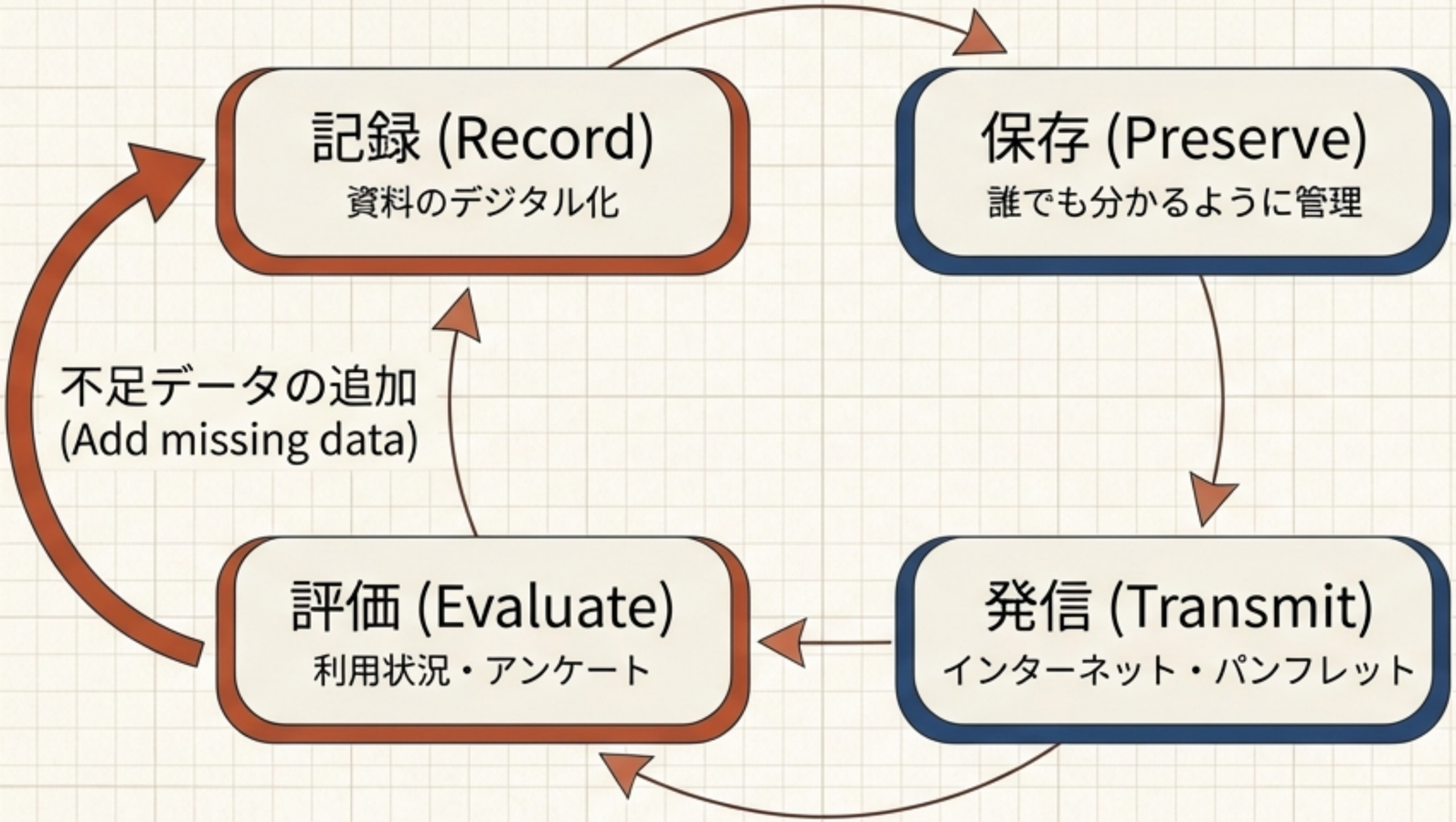
NotebookLM

選定評価の7項目

✓	1. 保管・流通の適否	Is it appropriate to store/distribute?
✓	2. 権利・慣習	Copyright, Portrait rights, Privacy
✓	3. 社会的背景	Community sentiments
✓	4. 文化的内容	Value in history/folklore
✓	5. 利用者の状況	Educational considerations
✓	6. 利用環境	How will it be presented?
✓	7. 安全上の課題	Security/International relations

NotebookLM

デジタルアーカイブのプロセス — 終わりのない循環



「デジタルアーカイブには終わりというものが存在しない」

NotebookLM

ステップ1：記録（事前調査と計画）

① 対象の明確化（Clarification）

- 歴史的背景の調査
- 所在と周辺環境の確認

→

② 管理者・関係者（Stakeholders）

- 所有者および施設の特定
- 撮影許可の申請手続き

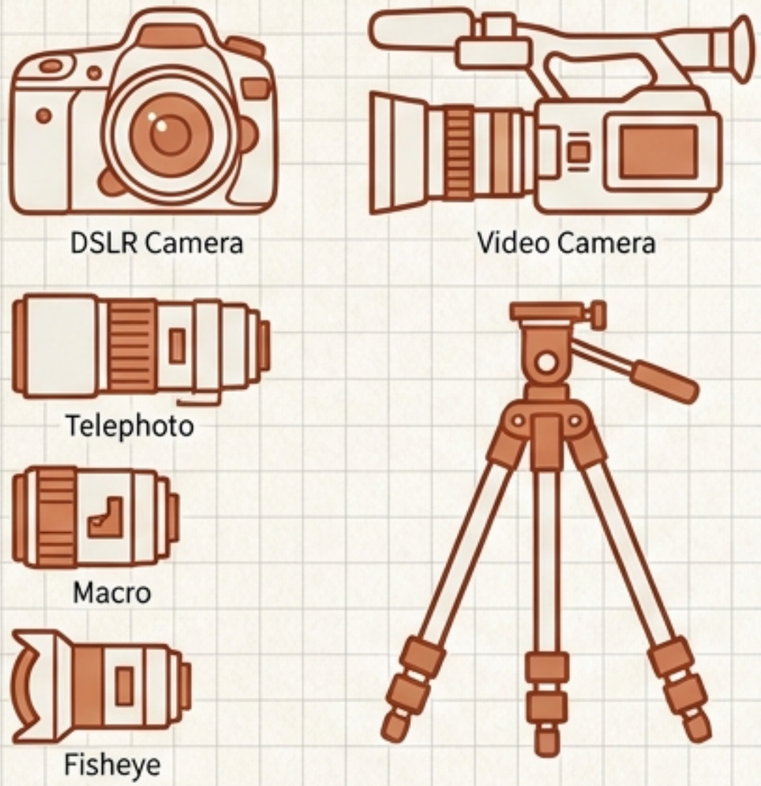
→

③ 撮影計画（Shooting Plan）

- 撮影漏れや偏りの防止
- 形式の決定（静止画／動画／音声）
- アングルと時期の選定

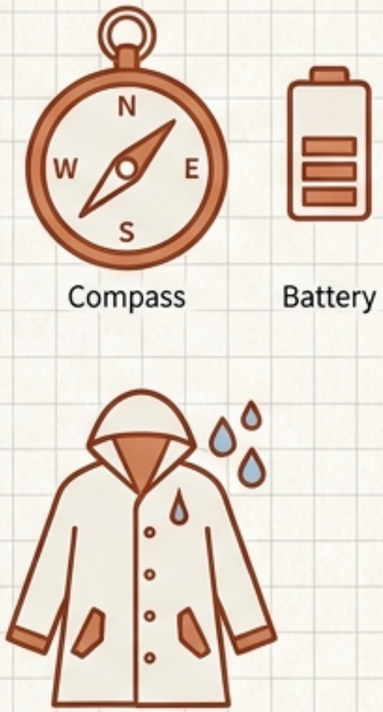
NotebookLM

撮影準備：必要な機材とツール



撮影機材 (Camera & Support)
Noto Sans JP Regular, Dark Slate Grey

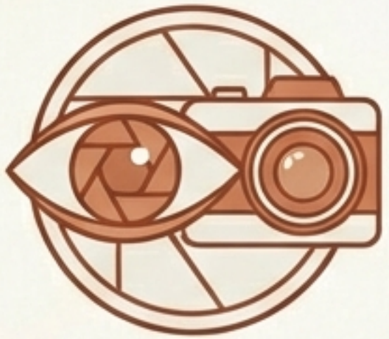
調整・音声 (Calibration & Audio)
Noto Sans JP Regular, Dark Slate Grey



野外装備 (Field Gear)
Noto Sans JP Regular, Dark Slate Grey

NotebookLM

記録すべき3つのデータ要素



1. 映像 (Visual)

静止画：建物、古文書
動画：伝統舞踊、演武、祭礼
（所作や時間の流れを記録）

2. 音・音声 (Audio)

人の声：語り、掛け声、音楽
自然音：鳥や虫の声、川の音、雷鳴

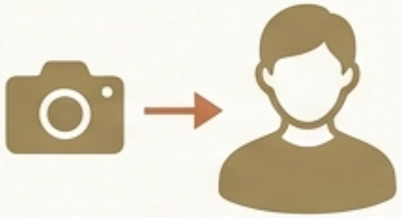
3. 環境データ (Environmental)

気候：気温、湿度、明るさ
（工芸や自然現象に影響）
位置情報：GPS（緯度・経度）

NotebookLM

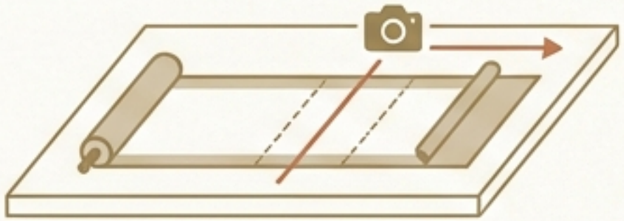
記録のための7つの撮影技法

ポートレート (Portrait)

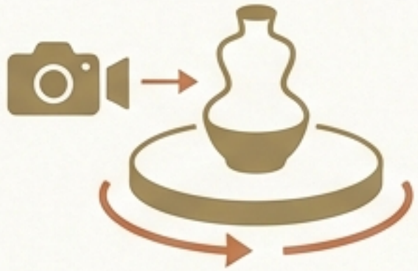


接写 (Macro/Scan)

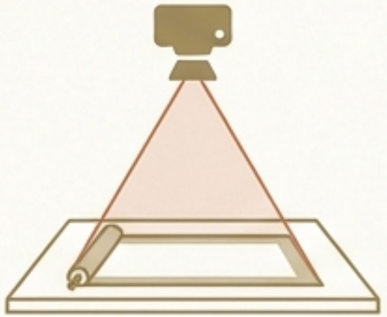
長尺物の撮影 (Long Objects)



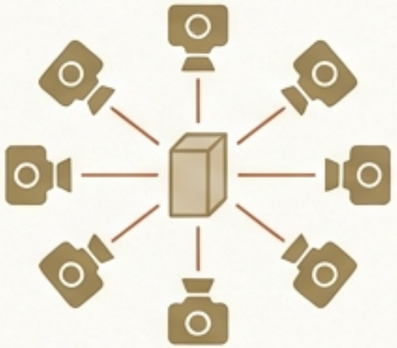
回転台 (Turntable)



天井カメラ (Ceiling Cam)



多方向同時撮影 (Multi-angle)



全天球・航空撮影 (360° /Drone)

NotebookLM

デジタルアーカイブの未来へ

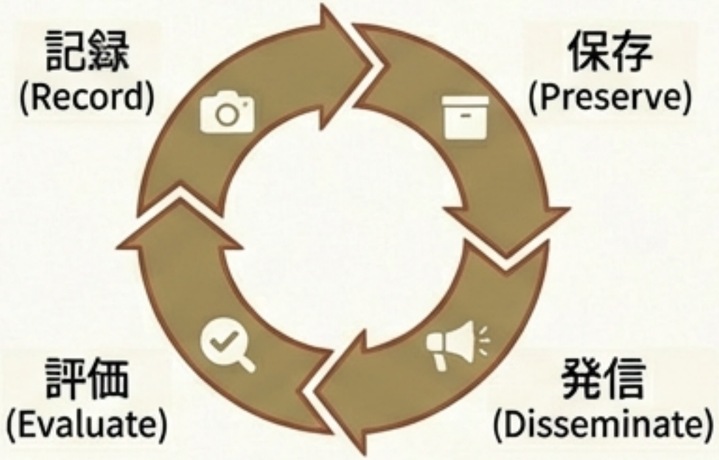
① 価値 (Value)

閲覧から課題解決、
そして知的創造へ。

② 倫理 (Ethics)

権利、安全、文化を
守る厳格な選定。

③ 循環 (Cycle)



記録・保存・発信・評価の
終わらないループ。

「対象だけでなく、環境・音・文脈をすべて記録し、
未来の知的創造へつなぐ。」

NotebookLM